

平成29年度学校評価報告書

1 本年度の学校経営の重点目標

- (1) 明るく活気があり、生き生きとした学校づくりに努める。
- (2) 夢と希望のある温かな学校づくりに努める。
- (3) 確かな学力を育む学校づくりに努める。
- (4) 教育環境が整った美しい学校づくりに努める。
- (5) 保護者から信頼され、地域とともに歩む学校づくりに努める。

2 評価結果

分野	自己評価 成果 (○) 課題 (◇)	改善策
確かな学力	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科を中心に、課題解決的な言語活動の工夫を通して、自ら考え、思いを進んで表現する児童を育成するための授業研究・授業改善を実施 ・ 学習計画表を使用し、見通しをもたせ、振り返りを行う学習 ・ 平均点のみに着目せず、児童一人一人の成長を看取り、寄り添う姿勢で個に応じた細やかな指導を実施 ・ 家庭学習強化月間（3回）の実施と家庭学習の手引きの活用 ・ 校内ノート展の実施 ・ 市及び他市教育委員会の講師と連携した校内研修支援の活用 <p>○ 本時の目標や振り返りをすべての授業時間で行い、自分の思いや考えを伝え合うための場を設定してきた。その結果、積極的に発表する等、主体的に授業に取り組もうとする児童が増えた。</p> <p>○ 問題解決型の学習を取り入れ、主体的・対話的な活動を実践してきたことにより、「授業がよく分かる」と回答する児童が、年間を通して高い割合を示している。</p> <p>○ 努力を要する状況にある児童に対して、担任や学力向上支援員による個別指導を継続し、算数等において少しずつ効果が見られるようになった。</p> <p>○ 研修の目的を全職員で明確にし、学思逞3つのプロジェクトによる小グループ研修を計画的に実践することで、研修の積み重ねが児童の成長に直結することを確認できた。</p> <p>◇ 県学力診断のためのテスト分析により定着の差が見られた内容についての学級集団の特徴にあった指導法の明確化・実践</p> <p>◇ 語彙力を含め、自分の思いや考えを豊かに表現する力の育成</p> <p>◇ 主体的に取り組む家庭学習の更なる定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元や授業におけるねらいや評価基準を明確にし、それを達成するための学習形態について研修を深め、実践の成果を全教職員で共有する場を設定する。 ・ 計画的、継続的にボトムアップ型の研修を行い、授業に対する教師の意識改革をさらに進めていく。 ・ 宿題や家庭学習の見直しを図り、児童一人一人の課題に応じたオーダーメイドの学習を考える体制の構築に努める。 ・ 二者面談を活用し、児童一人一人の学習における課題を学校と家庭が共有することができるようになる。
	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童主体の実行委員会運営による学校行事の取組 ・ 特別支援教育の手法を生かした学級経営、生徒指導の 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導主事、特別支援コーディネーターを中心にケ

<p>豊かな心</p>	<p>充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育専門家派遣事業（友部特別支援学校の巡回訪問及び職員研修）の積極的活用 ・ 大学教授等を講師として招聘したケース会議 ・ 幼保こ小の連携として、夏季休業中新たに実施した教職員による園訪問と交流 ・ 学校生活アンケート（毎学期）及びQ-Uテスト（年2回）の実施及び活用 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級経営や学校行事の工夫がみられ、学校が楽しいと実感する児童が94%に達している。 ○ 児童の生活アンケートを毎月実施し、学習や生活、体罰、いじめに関する情報を収集し、児童を看取り、早期対応に努めることができた。 ○ 高学年児童の多くが、全校児童の前で活動する経験をし、それが自信につながり、自ら実行委員や代表でのあいさつを希望する児童が増えた。 ○ 読書活動を推進し、市図書館からの貸し出しや図書室からの移動学級文庫で新しい本に触れる機会を設けたことにより、読書50冊以上の割合が全児童の78%を超えることができた。 ◇ 不登校傾向にある児童や保護者に対しての関わり方 ◇ 「生活のきまり」の見直し等、校内規律の改善 ◇ あいさつや返事の更なる向上 	<p>ース会議を充実し、早期対応を心がける。必要に応じて、専門家の見解をいただく機会を設け、関係機関との連携強化を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級活動において、生活トレーニングを位置付け、児童同士が互いの言動について声をかけ合える環境を作る。 ・ 面談や教育相談を定期的実施し、児童一人一人の心の変化に対応することができるようにする。 ・ 児童の活躍する場を効果的に設定することで、児童が自ら目標とする姿を思い描き、活動できるよう指導していく。
<p>健やかな体</p>	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの習慣化が図れる体育的行事の工夫（通年、業間マラソン・業間なわとびの実施） ・ 体育授業・運動プログラムアドバイザー派遣事業の積極的な活用 ・ 親子防災教室（2年）、親子性教室（5年）、薬物乱用防止教室（6年）の実施 ・ 放射線や不審者、地震や火災等の避難訓練の計画的・継続的な実施。児童による振り返りの時間の確保 <ul style="list-style-type: none"> ○ 体力を向上させたり、自分の身を守ろうとしたりする意識が多くの児童に見られるようになった。 ○ 体力テストのABの割合が59.3%となり、県の目標値を上回っている。 ○ 朝食摂取率が100%にほぼ達している。 ○ 登下校の安全指導や保健学習を計画的に実施して、児童の健康・安全への意識化が図られている。 ◇ 継続性をもたせた学習カードを活用し、目標に向かって体力づくりに励む授業にさらに取り組む必要がある。 ◇ 運動の質の向上を目指した授業改善を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年間を見通せる学習カードを活用し、年間を通した業間運動を確実に実施する。 ・ 学校行事に対する準備期間や内容を見直し、先を見通して活動することができるようにする。

<p>家庭・地域との連携</p>	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校だより「あたご」とブログの更新 ・ 三世代交流事業（いきいき三世代スクール）における地域人材の積極的活用 ・ 地域，保護者と協働した校内持久走大会の運営 ・ 学校評価アンケート分析と対応 <p>○ 学校だよりの回覧やブログの更新により，学校情報の公開が活性化し，地域の方から好評を得ている。</p> <p>○ 新たな講座も開講し，三世代スクールを工夫して，参加者が楽しめる企画をした。講師を地元で縁がある方々をお願いしたので，地域に根差した行事となった。</p> <p>○ 校外学習における見学先を地元の工場や企業に要請することにより，身近なこととして児童が興味・関心を高めることができた。</p> <p>◇ 岩間中学校区コミュニティスクールの実施を意識した地域人材の更なる活用・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校だよりやホームページの内容を工夫し，保護者や地域住民に教育活動への理解をさらに呼びかける。 ・ 保護者や地域住民等の理解や参加の協力が得られるよう学校行事の実施日及び内容について検討していく。 ・ 学校支援ボランティアの導入や活用について検討する。
------------------	---	--

3 学校関係者評価

分野	学校の取組に関する評価(○)と今後の改善点(◇)	
<p>確かな学力</p>	<p>○ 児童一人一人を生かす場の設定が教育活動の随所に見られた。</p> <p>○ 特別支援教育の手法を先生方が学び，丁寧な指導が行われている。児童一人一人に応じた指導，大変だと感じた。</p> <p>○ 先生方が熱心に指導をし，分かりやすい授業を，どの学級も展開している。児童が真剣に取り組む姿勢が見られた。先生の話に集中している様子が分かった。高学年では，自主的に学習活動に取り組む姿勢があり，意欲の高まりを感じることができた。</p> <p>○ グループ別学習，学び合い等の学習が定着し，落ち着いた中で授業を受ける態度が身に付いている。先生方の言葉かけも丁寧でよい。</p> <p>○ 児童作品に対する先生のコメントが，一人一人のがんばりを上手に取り上げ，さらにはがんばろうとする意欲を引き出していた。</p> <p>◇ 児童は積極的に発表しているが，もう少し大きな声で発表できるとよい。</p> <p>◇ 一人親や家庭の事情により，子どもと接する時間が少なくなっている家庭が増えている。ノート，宿題，プリントなども目を通すことが少ないかと思う。今後もやる気をもたせる言葉をかけながら学力向上を図ってほしい。</p>	
<p>豊かな心</p>	<p>○ あいさつがよくでき，礼儀正しい児童が育っている。のびのびと学校生活を送っている印象がうかがえた。相手の顔を見て，笑顔であいさつができる児童がいる。学校外でも，児童と遭うと，あいさつや会話を等，きちんとした態度で対応できる児童が増えている。</p> <p>○ 授業でのあいさつが大きな声で言えていて素晴らしい。</p> <p>○ 学校内外がきれいである。きれいな環境が，豊かな心の育成に結びついていく。</p> <p>○ 縦割り班活動や児童主体の実行委員会運営等を通して，それぞれが責任をもち，お互いを認め合うことの大切さを学んでいると思う。</p> <p>○ 学校を楽しんでいる児童が多いのは，学習だけでなく，その他の学校生活が充実しているからだと感じる。</p> <p>◇ 一部に不登校やいじめがあることは，残念。道徳教育の更なる取組をしてほしい。</p> <p>◇ 「あいさつ」は人としての基本である。地域の中でもできるようにしたい。</p> <p>◇ 今後も職員一丸となってよさを伸ばす運営に取り組んでほしい。</p>	

<p>健やかな体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 業間での縄跳びやマラソン等の取組により、屋外で体を動かす時間が増え、児童の体力向上や、目標に向かって取り組む姿勢が感じられた。 ○ 相撲の土俵や縄跳びの練習板等を新たに設置し、さまざまなスポーツで体を動かす楽しさや大切さを身に付けていると思います。 ○ 持久走大会での頑張る児童の様子を参観し、緊張感や友達に対する声援、最後まであきらめず張り切る姿等、このような経験が後に活かせる貴重な経験であると感じた。 ◇ 生活アンケートによると「決まりや約束を守っていますか」「給食を残さず食べていますか」など基本的な生活習慣に関わる意識がやや低い。家庭と問題を共有して、家庭教育の取組を積極的に行ってもらえるよう働きかけてほしい。 ◇ 体力向上のために年間を通して取り組めるものがあるとよい。業間マラソン、持久走、縄跳びなど継続して体力向上を図ってほしい。
<p>地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の持久走大会を、地域の団体や保護者との協働で行ったことは、とてもよい。地域の方々に見守られ育っていくのは、子ども達にとっても、地域に住む人たちにとっても良いことである。 ○ 生まれ育った地元を知るということはとても大切である。地域人材の活用は、地域教育の面からよいことである。 ○ 学校だよりの回覧やブログの更新等により多くの方々に学校の様子を知ってもらうことは、大変よい。学校だよりは内容も分かりやすく、学校への関心を高め、児童への関心や見守りにつながると思う。地域回覧により、子どものいない家庭にも学校の様子を理解することができる。今後も継続してほしい。 ◇ 学校だよりやブログ等に先生方の研修について載せていくとよい。さらに、学校への期待や信頼が高まると思う。 ◇ 保護者や地域との情報共有と更なる連携を進めてほしい。 ◇ 幼保この連携や中学校との連携も、さらに深めていく取組をすすめていく必要がある。 ◇ 保護者のアンケートから、家庭学習・挨拶や返事・ノートや宿題、そして文書やたより等の項目で、学校任せのような感じがする。忙しいとは思いますが、もう少し子どもと接するようにしてほしい。 ◇ 三世代交流のみならず、さまざまな人材をもっと活用することにより、地域、家庭の連携した教育により、未来を担う子どもたちにとってよりよい環境を作ってほしい。